

事例番号:290006

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 0 日

4:18 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 0 日

6:32 骨盤位、陣痛発来の診断で帝王切開にて児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 0 日

(2) 出生時体重:2352g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.32、PCO₂ 48mmHg、PO₂ 24mmHg、
HCO₃⁻ 24.0mmol/L、BE -2.1mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 8 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

出生当日 帝王切開児症候群、低出生体重児の診断

生後 19 日 退院

生後 6 ヶ月 頸定未、運動発達遅延

1 歳 8 ヶ月 アトピー型脳性麻痺の診断

(7) 頭部画像所見:

生後 8 日 頭部 CT で視床に高吸収域あり

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、入院前に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血による中枢神経障害である可能性が高い。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性はある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 骨盤位で帝王切開が予定されていた妊産婦に対し、妊娠 37 週 0 日に陣痛開始したことを適応として緊急帝王切開を施行したことは一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後の処置(刺激、羊水吸引)、帝王切開児症候群、低出生体重児の診断で当該分娩機関小児科へ入院としたことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

家族から意見が多く提出されているため、医療スタッフは妊産婦や家族とより

円滑なコミュニケーションが行えるよう努力することが望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

入院前(陣痛開始前)に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例を集積し、原因や発症機序についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

入院前(陣痛開始前)に発症した異常が中枢神経障害を引き起こしたと推測される事例の発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。